

各 位

2021年8月16日
株式会社リットーミュージック

リズム&ブルースやソウルにおける

ベース奏法の本格解説書が登場!



インプレスグループで音楽関連のメディア事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本大輔）は、『R&B ベースの技法』を、2021年8月24日に発売します。

ブラック・ミュージックにおけるブルースやファンクとは異なるエッセンスが学べる、「R&B ベースの教科書」がついに登場しました。

著者の長年の R&B 研究によって導き出された 16 の主要アプローチを軸にさまざまな R&B フレーズの魅力を紐解いていきます。

そのボリューム満点な R&B フレーズの模範演奏は CD2 枚に収録!

※付録 CD に収録された音源は HP([https://www.rittor-](https://www.rittor-music.co.jp/product/detail/3120217106/)

music.co.jp/product/detail/3120217106/)からダウンロードも可能です。模範演奏にはカラオケがついていて、音源に合わせての練習ができます。

エクササイズモチーフは R&B の名曲で実際に聴ける華麗なるベース・プレイです。ジェームス・ジェマーソン、チャック・レイニー、など 14 人のレジェンド・プレイヤーの演奏を参考にしたすぐに取り入れたいテクニックが満載。

マーヴィン・ゲイ、ダニー・ハサウェイ、ジェームス・ブラウン・スタイルなどの王道からアシッド・ジャズ、ネオ・ソウルまで時代を越えたさまざまなスタイルにも対応しています。

本書で頻出する付点休符などが多い「リズム感」を要求されるフレーズの中にはかなり難度の高いものもあり、巷によくあるスケール練習や音符詰め込み型トレーニングなどでは得られない新たな技能が身につつき演奏の幅を広げてくれます。

すべてのジャンルに応用できる R&B ベースの技法、この 1 冊で身につけてみませんか?

2 R&B ベースの必須奏法

R&B ベースは、テクニック面ではシンプルなものが多いですが、そのシンプルなフレーズをいかにしてグルーブさせるかが重要になります。ここでは、そんな R&B ベースの重要な奏法を確認しましょう。

① スタックカート

テヌート（音符の長さを十分保つ）は発音タイミングのみがリズムを表現する要素となり、スタックカート（音を短く切る）は発音タイミングと音価（音符の長さ）がリズムを作ります。R&B ベースでは、両者を的確に使い分けてリズム面を強調するスタイルが中心となります。

例えば、ピック弾きのロックならテヌートが中心となるため、音価によるリズム表現は弱くなり、アタックの強いトーンによって勢いやドライブ感を出すことが重要になります。4ビートのジャズもテヌートがメインですが、ウッドベースを持つダイナミクスと立ち上がりの遅いアタックにより、同じテヌートでもロックとは大きく印象が異なります。このようなことを意識しながら、R&B 流のスタックカートを Ex-1 で表現してみましょう。

Ex-1 音価でグルーブを作る R&B 流スタックカート

▲スタックカートの音価はベースの判断となります。音価が短いほどリズムでタイトな印象になりますが、音符の50%程度、または70%といった音価を表現してみると、スタックカートによるリズム面の変化が感じられるでしょう。

② ゴースト・ノート

ベースに打楽器のようなニュアンスを加えてファンキーさやタイトさを表現するゴースト・ノートも R&B ベースの必須奏法です。ファンクにゴースト・ノートはなくてはならない存在で、ミドル・テンポ〜スロー・テンポでもベース・ラインを明確にする目的で使われます。Ex-2 は、ファンクにおけるゴースト・ノートの典型的な使用例です。

Ex-2 ファンキーなベース・ラインでのゴースト・ノート

▲ゴースト・ノートはパーカッシブな効果を狙う奏法なのでジャズなリズムで弾き、小気味良さを表現しましょう。

COLUMN

R&Bベースを知るには、コレを聴け！ 70's編

[Straight From The Heart] (1971年)
アン・ピーブルズ (Ann Peebles)



[Let's Stay Together] (1972年)
アル・グリーン (Al Green)



[Candi Staton] (1972年)
キャンディ・ステイトン (Candi Staton)



[Howard Tate] (1972年)
ハワード・テイト (Howard Tate)



[Back To The World] (1973年)
カーティス・メイフィールド (Curtis Mayfield)



[The Way I Feel] (1975年)
ニキ・ジオヴァニ (Nikki Giovanni)



1970年代はR&Bの黄金時代です。ジャズ、ファンク、フォークなど様々なジャンルが融合し、セッション・ベーシストの台頭もあってベースが主眼する作品が一気に増えました。テネシー州メンフィスで設立されたハイ・レコードの専属バンドが作り出す独特のリズムは「ハイ・リズム」と呼ばれ、アン・ピーブルズ、アル・グリーンで素晴らしい音楽家、アレンジを盛り込んでいます。ニュー・ソウルと呼ばれる新しいスタイルのR&Bが現れたのもこの時代。その代表がマーヴィン・ガイ、ダニー・ハサウェイ、カーティス・メイフィールドの高々で、1960年代のスタイルは影を削ぎ、洗練されたリズム、コード進行による現代にも通じる作品を確立しました。最も作品が自白詩という1970年代にあって、あまり有名ではないもののベーシストにオススメしたいのがニキ・ジオヴァニ『The Way I Feel』です。女流詩人であるジオヴァニのポエトリリーディング作品ですが、のちにスタッフを結成することになるゴードン・エドワーズ、スターヴァグッド達によるジャズ・ファンク風のアレンジが秀逸、間違いなくゴードン・エドワーズのベスト・プレイの一つが聴ける作品です。

1 チャック・レイニー

(1940年～、アメリカ/オハイオ州出身)



テクニク、フレーズ、存在感、そのすべてが真のレジェンド

かなり速いフレーズも人差指だけでピッキングすることが多く、それがトーンの安定感に繋がっています。アップ・テンポでの16分音符の連続では中指も使用し、オクターヴ音型では1弦を薬指でピッキングすることもあるようです。

セッション・ベーシストとして最も成功した1人で、アレサ・フランクリン、シュープリームス、ロバート・フラックといったR&B作品から、キング・カーティス、グラント・グリーン、フィンシー・ジョーンズなどジャズ寄り作品、さらにはステイラー・ダンからロック、ポップスまで、ファンキーなベースが必要な場面でお声がかかる正にR&Bベースのレジェンドです。

ポリリズムなリズムの多用と音数が多さが特徴で、ドラム、メロディの合間に小気味よく入る16分音符のフレーズがたまたなくカッコいいです。特に、ミドル・テンポの16ビートでのプレイが真骨頂といえるでしょう。フレーズの持ちネタは相当なもので、それを曲によって「どこまで出すか」を決めているようなニュアンスが感じられる辺り、底なしのポテンシャルを秘めている気がしてなりません。



『This Mother's Daughter』 (1976年)
ナンシー・ウィルソン (Nancy Wilson)

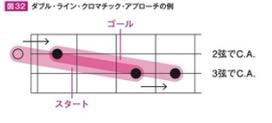
▲チャック・レイニーもスターヴァグッド (dv) のリズム・セクション。R&BとAORが融合したようなメロウな作品ながら、レイニーの存在感が厚まじく、聴衆の心に染み込ませるプレイが堪能できます。

(使用ベース) フェンダー・プレジジョン・ベース。ローズ指板 (1957年製)。既定ピッキングアップとブリッジの中間にピッキングアップを増設。

(PickUp)

ダブル・ライン・クロマチック・アプローチ

工夫を凝らしたフレーズを得意とするチャック・レイニーらしいダブル・ライン・クロマチック・アプローチです。2弦と3弦で短3度音程を作り、そのまま平行移動する方法で、結果として2弦のC.A.と3弦のC.A.が同時進行する形になります。スタート部分はスケール・アウトから入りますが、ゴールの2音がスケール音であれば自然な響きになります(図32)。



スケールによるフレージング

第1章では取り上げませんでしたが、明確なアプローチを採らず、スケールでメロディを作るようなベース・ラインが「スケールによるフレージング」です。決まったパターンはなく、コード・トーンを意識したり、ルートと経過音だけでベース・ラインを構築するなど、様々な方法があります。

Ex-52 8分と16分の難解のバランス

▲9小節目以降は、1拍目=8分音符、2、3拍目=16分音符、4拍目=8分音符という基本構造になっていて、特に2、3拍目の16分音符がメロディの合間にすばりと収まるバランスが見事です。12、13小節目のハイブリッド・コードでは、[ルート+5th]のシンプルなアプローチで弾いています。

1 60's R&B

R&B創成期の1950年代はひたすらにシンプルなベース・ラインがほとんどで、1970年代になると様々なアプローチとともに複雑化します。その中間期にあたる1960年代は、前半は50's寄り、後半は70'sへ向かうイメージのブレインへと変化しており、音楽の進化、変化を体験できる面白い年代です。

1950年代から活動、または1960年初頭にデビューしたアーティストはまだ50'sを引きずっているため比較的シンプルですが、1960年代中盤以降にデビューしたアーティストはいきなり洗練された作風になっています。この頃からセッション・ベーシストが台頭してきたことから、ベーシストのアプローチ次第で音楽スタイルが変化することがはっきり分かってでしょう。モータウン・レーベルがポップR&Bのヒット曲を連発していた時代でもあります。

Ex-116 ジャズな4ビートはコード分解が中心

▲1小節目に4音の4ビートは少ない音数でベース・ラインをまとめることと、経過音を詰め込むことができないためコード分解をフレーズの骨格にすることがポイントです。1小節目は経過音(9th)を使用、2小節目はルート・ペダル、3小節目はルートの上の5thと上のM3rdというように、ドライアドを様々な音型で弾くことが重要になります。

■書誌情報

書名：R&B ベースの技法

著者：竹内一弘

定価：定価 2,420 円（本体 2,200 円+税 10%）

発売：2021 年 8 月 24 日

発行：リットーミュージック

商品情報ページ <https://www.rittor-music.co.jp/product/detail/3120217106/>

CONTENTS

第1章 頻出テクニック&必須音楽理論

R&B グルーヴ

R&B ベースの必須奏法

R&B ベース・ラインの特徴

R&B ベースの軸となるクロマチック・アプローチ

メジャー・コードでのコード分解(アルペジオ)

etc

第2章 R&B レジェンドから学ぶ

チャック・レイニー

ジェームス・ジェマーソン

ウィリー・ウィークス

ドナルド“ダック”ダン

ルイス・ジョンソン

ラリー・グラハム

ブーツィー・コリンズ

フランシス“ロッコ”プレステリア

ヴァーダイン・ホワイト

ジェリー・ジェモット

バーナード・エドワーズ

ジョージ・ポーターJr.

ネイザン・ワッツ

マーヴィン・アイズレー

第3章 年代/ジャンル別 R&B ベース・ライン

60's R&B

70's R&B

ジェームス・ブラウン・スタイル

ブラック・コンテンポラリー

アシッド・ジャズ

ネオ・ソウル

COLUMN R&B ベースを知るには、コレを聴け!

60's 編

70's 編

チャック・レイニー編

ポップ R&B 編

ブラック・コンテンポラリー&ネオ・ソウル編

PROFILE

竹内 一弘（たけうち かずひろ）

Whereabouts Records を立ち上げ、国内外のアーティストを発掘。マスタリング・エンジニアとしてもフル回転中で、メジャー・レーベル~インディーズ・アーティストから絶大な信頼を得ている。ギターとアナログ機材をこよなく愛するも自身はテクノ・アーティストで、“モードやポリリズム”で理論武装した個性的なエレクトロニック・ミュージックをリリースしアンダーグラウンド・シーンで注目されている。音楽ライターとしては多数の著書を執筆。音楽理論に明るく、中でもモード理論についてはこれまで日本になかった独自の切り口で、誰にでも分かり使える理論書を発表し好評を得ている。

【株式会社リットーミュージック】 <https://www.rittor-music.co.jp/>

『ギター・マガジン』『サウンド&レコーディング・マガジン』等の楽器演奏や音楽制作を行うプレイヤー&クリエイター向け専門雑誌、楽器教則本等の出版に加え、電子出版、映像・音源の配信等、音楽関連のメディア&コンテンツ事業を展開しています。新しく誕生した多目的スペース「御茶ノ水 Rittor Base」の運営のほか、国内最大級の楽器マーケットプレイス『デジマート』やエンタメ情報サイト『耳マン』、Tシャツのオンデマンド販売サイト『TOD』等の Web サービスも人気です。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証1部 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」「学術・理工学」「旅・鉄道」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報担当 原見

Tel: 03-6837-4704 / E-mail: pr@rittor-music.co.jp